

各常任委員会行政視察報告

総務企画委員会

視察日 10月7日～9日
埼玉県越谷市 市民協働の取組について、トイレトレーラーについて
神奈川県小田原市 空き家対策について、おだわらいノベーショナルラボについて

市民協働の取組（ほっと越谷）

越谷市では、男女共同参画推進のため男女共同参画支援センター「ほっと越谷」を開設し、登録団体へのセミナー・ルームの無料提供や七夕フェスタという登録団体との協働事業を実施している。

また、男女共同参画に関する講座等の企画を公募し、採択団体には、企画・運営費として上限5万円の助成を行っている。



トイレトレーラー

越谷市では、災害時の避難所でのトイレ環境の悪化が健康被害や災害関連死につながるとして、その防止のため、トイレトレーラーを導入した。個室トイレが4部屋あり、3トンタンク車で牽引を行う。

災害があった自治体へ参加自治体がトイレを派遣し合う「災害派遣トイレネットワークプロジェクト」に加入し、令和5年度までに12か所へ累計708日派遣されている。災害や派

遣がない平常時は、市内のイベント等への貸し出しを行っている。

空き家対策

小田原市では、空き家化の予防、適正管理の担当課と空き家バンク制度を運営する担当課が分かれていたが令和4年度に統一し、総合的な空き家対策を図ることとした。

空き家相談のワンストップ窓口では、宅建協会や司法書士会等と協定を結び、専門家による詳細調査や提案につなげている。

また、不動産無料診断制度を設け、宅建協会等へ業務委託をして市場価格を提示し、市場流通に乗せるためのきっかけづくりに取り組んでいるほか、地元信用金庫等と協定を結び、当初3年間無利子で事務取扱手数料等を無料とする空き家対策専用住宅ローンを提供している。

おだわらいノベーショナルラボ

民間事業者や若者、女性など多様な主体が集い交流することにより、新たなまちづくりにつなげることを目的として、小田原駅前の民間商業施設の中に開設。若者が地域課題を考え、新事業を構想する産官学連携の取組や、若者から地域活性化に資するアイデアを募り、上限30万円の補助金を交付するコンペティションを実施している。

また、企業の若手社員と市の若手職員による交流会を実施し、企業の上層部や市長に対する提言も行われている。

(今野孝碩)

文教民生委員会

視察日 10月16日～18日
東京都豊島区 教育連携の取組について、豊島区立巣鴨北中学校（現地視察）
埼玉県草加市 認知症検診などの認知症への取組について、草加市子育て支援センター（現地視察）

教育連携の取組

豊島区と能代市は、両区市が情報交換や交流訪問等の活動を通じて互いのよさを共有し、今後一層の学力向上を目的として、平成25年1月19日より教育連携協定を締結。以降毎年、教員の派遣交流やシンポジウムの開催を行っている。令和5年度からは「Friendschool」、「教員派遣研修」を実施。6年度は規模を拡大して、オンラインでの生徒同士の交流や両市区の教員が相互に訪問し、授業の視察や意見交流会を行っている。

今回、巣鴨北中学校を現地視察し、実際に能代市の授業を見学した先生から、能代の教育のことがすごいという点を聞かせていただいた。1、先生方の授業に対するまなざしや姿勢、2、授業の流れが個人のスキル任せでなく、学校全体で徹底をされているところ、3、生徒の授業態度や「自学」と言われる主体的な学習がなされているところ。中でも2、が特にすばらしいところだとお話されていた。

巣鴨北中学校でも同スタイルを取り入れている先生がおり、今後は全校体制で実施することを検討している。

と伺った。改めて能代市の教育レベルの高さを感じることができた。

認知症検診などの認知症への取組

草加市に住民票がある60歳の方及び65歳以上の方は指定医療機関に直接行き、「脳の健康度チェック表」を記入し、それを基に医師の問診を無料で受けることができる。より詳しい検査が必要と判断された場合には2次医療機関につなげている。

平成26年度より実施され、広報やポスター、チラシのほか、医師による講座の開催など、受診率向上のために様々な活動を継続して行っている。

草加市子育て支援センター

多世代が居住する広大な団地の中に、平成22年に草加市立さかえ保育園との複合施設として開設。妊娠期や子育て、親子間や不登校、発達相談など、18歳未満の子供とその家族の悩みに関する総合相談窓口を設置。そのほか、発達に心配のある子供や家族の相談・支援を行う発達支援センターと診療所を併設し、医師、臨床心理士等が子供の診療を行う。さらには児童デイサービスセンターの設置や子育て情報サイトの運営など、子育て支援に関する様々な機能を備え、多くの市民に利用されている。



(阿部 誠)